

第1回 府中市商店街振興プラン検討協議会 議事要旨

- 日時 令和3年3月15日(月) 18:00~19:15
- 場所 府中市役所北庁舎3階第三会議室
- 委員
- | | | | |
|-----|--------|-----|--------|
| 委員 | 井上博正 氏 | 委員 | 郭東仁 氏 |
| 委員 | 川口宣男 氏 | 委員 | 筒井孝敏 氏 |
| 委員★ | 廣瀬健 氏 | 委員 | 丸山悦子 氏 |
| 委員 | 宮沢ゆい 氏 | 委員☆ | 森田俊朗 氏 |
| 委員 | 森本憲 氏 | | |

(計9名)

★：会長、☆副会長

- 欠席委員 川口宣男 氏
- 傍聴者 なし
- 事務局職員 産業振興課商工係
- その他 むさし府中商工会議所 職員2名

- 議題
1. 委嘱状の伝達
 2. 市長あいさつ
 3. 委員及び事務局紹介
 4. 会長・副会長選出
 5. 諮問
 6. 会議の公開について
 7. 商店街振興プランの策定について
 8. 商店街アンケート調査について
 9. 今後の進め方について
 10. その他連絡事項

- 配付資料
- 資料1 府中市商店街振興プラン検討協議会規則
- 資料2 府中市商店街振興プラン検討協議会委員名簿
- 資料3-1 府中市商店街振興プラン検討協議会の会議の公開について(案)
- 資料3-2 府中市商店街振興プラン検討協議会の傍聴について
- 資料4 府中市商店街アンケート調査
- 資料5 府中市商店街振興プラン検討協議会の進め方(案)
- その他 現行の府中市商店街振興プラン

■議題（詳細）

1. 委嘱状の伝達

事務局より委員の出席者と配付資料について確認した。

2. 市長あいさつ

この度は、検討協議会の委員を引き受けていただきお礼申し上げます。また、皆様にはふだんから市政にご理解・ご協力いただき重ねてお礼申し上げます。今回は、平成26年度に策定したプランを見直すために検討協議会を設置した。このプランは令和4年度を初年度とするもので、現在のプランを基本としながらも、多様な社会情勢の変化やコロナ禍に対応した新しいプランを策定したいと考えている。地域の要となる商店街の活性化に向けて、お力添えいただきたい。

3. 委員及び事務局紹介

各委員より自己紹介が行われ、事務局からも職員等の紹介が行われた。

4. 会長・副会長選出

廣瀬会長 皆様と深く議論を進めたいと考えている。よろしくお願ひしたい。

森田副会長 少しでも皆様のお役に立てればと考えている。よろしくお願ひしたい。

5. 諮問

市長から廣瀬会長へ諮問が行われた。

6. 会議の公開について

廣瀬会長 会議の公開について説明をお願いしたい。

事務局 事務局より資料3-1、資料3-2に基づき説明を行った。

廣瀬会長 何か質問はあるか。無ければ次の議題に進みたい。

（質疑なし）

7. 商店街振興プランの策定について

廣瀬会長 商店街振興プランの策定について説明をお願いしたい。

事務局 事務局より商店街振興プランの策定について説明を行った。

廣瀬会長 何か質問はあるか。無ければ次の議題に進みたい。

（質疑なし）

8. 商店街アンケート調査について

廣瀬会長 商店街アンケート調査について説明をお願いしたい。

事務局 事務局より資料4に基づき説明を行った。

廣瀬会長 何か質問はあるか。

井上委員 商店街は、くるるのようなビル型と路面型との2つに分かれている。どちらの場合であっても、駐車場、駐輪場の確保という課題になっている中で、関連した選択肢がないことが気になっている。また、自転車が電動となり重くなっている中で、高齢者対策としての駐車場、駐輪場の設置、運営などの視点が抜けているのではないか。

それから、商店街の店舗数減少の要因を把握しないと抜本的な対策につながらない。地方をみると、農業なみの相続税の特例を設けてくれている。農業はそのような措置があるが、商店にはそういう特例はない。相続のことも課題となっているため、その問題を把握できるようにした方が良いのではないか。

ビル型の商店街について、営業時間、家賃の高さが課題となっており、コロナ禍でイオンモールなどから撤退している店舗が増えている。理由としては、営業時間が夜10時までとなっており、そんな遅い時間までの営業は負担が大きいためである。また、都内のショッピングモールに比べると25%くらい家賃としてとられてしまう。府中市でも15%くらいかかってしまう。そのようなこともアンケート調査で把握しないと商店街の実態がわからないのではないか。

事務局 中心市街地のような密集したエリアについては、駐車場、駐輪場の問題があることは認識している。しかし、法律を踏まえると、まずは自らの建物の所有者が顧客のために駐輪場を設けないといけないことになっている。当初、中心市街地は自転車法ができる前の建物が多かったため、再開発が整備されるまでの間は行政側で対応してきた。その後、中心市街地については一定の駐車場の整備も終わった段階にあるので、行政としては整備された駐車場、駐輪場の利用を促しているところである。一方、郊外型の商店街では、買い物をした人が店の前に停めることができる利便性の高いものとなっている。目の見えない人の対策というのが一般的だが、目の見えない人が来た時にすぐに自転車を移動できる場合は放置として認められないため、各店舗は臨機応変に対応している。駐輪場、駐車場については、まずこのスタイルを進めていき、個別にヒアリングの際に課題を吸い上げたいと考えている。

店舗数の減少傾向に対する要因は、問13で把握するつもりである。また、家賃に関連した設問としては、問20において店舗が入らない要因を尋ねている。いずれにしてもアンケート調査で吸い上げられないものについては、特色のあるところをヒアリング調査で聞き取りしていきたいと考

えている。

森本委員

市が進めている中心市街地の活性化とこのプランとの整合性はどのようなところにあるのか。

事務局

市が進めている中心市街地の活性化に向けた取組については、ここ数年、府中市の乗降客数が少なくなっている一方で、近隣自治体の中心市街地が活性化し、府中市だけ取り残されるのではないかと恐れている。そのため、衰退しきってしまう前に、中心市街地の活性化を図っているところで、あくまでも成功例の実績をつくるというのが大きな目的となっている。現行プランにある通り、100円商店街、(街)バル、まちゼミが3種の神器と呼ばれているが、なかなか実施に至っていなかったが、ここ最近で、まちづくり会社を中心となって(街)バル、まちゼミを実施しており、新たな活性化策としてリピーターを増やす、店舗のファンを増やすための取組を展開している。すでに、まちゼミは過去に何度か実施しており、地域の商店街に波及させる段階にきている。中心市街地の成功例を周囲の商店に早く波及させる目的があるので、ご理解いただきたい。

井上委員

中心商店街と郊外商店街とで、ちゅうバスの影響はどのように出ているのか。山形県の県庁所在地に百貨店がなくなったというニュースがあった。理由としては仙台まで高速バスで行ってしまっているからであった。武蔵野市であっても、吉祥寺は大きいですが、周りの商店街は壊滅させられた。そのあたりのところはどこまでご理解いただいているのか。中心市街地を便利にすると、郊外型の商店街は壊滅する恐れがあるが、このあたりはどのように考えているのか。

事務局

ちゅうバスの運行については、所管が異なるため概略だけ説明させていただきたい。商店街の活性化において、ちゅうバスの目的は公共施設をつなぐことである。いったん、府中駅に集約させて公共施設とをつないでいるので、駅付近に買い物をする人が集中してしまう傾向となっているのは承知している。しかし、コロナ禍において、中心市街地の商業手法というのが、人を集めた段階でお金を落とす手法をとっているが、郊外は、原点回帰で戻っているという話を聞いている。全国的に、パン屋は一人勝ちになっている状態。地元に戻ってきている顧客をどのように捕まえるのがチャンスと考えている。ちゅうバスの部分については、市としての全体の戦略があるのでご理解いただきたい。

郭委員

府中市はPRが苦手な印象を受けている。他市から顧客を呼び込めるようにPRの方法を検討していただきたいと考えている。

筒井委員

現行プランの検証を行っていただけると良いのではないかと。市内には14

の駅があるわけで、それぞれ環境が異なる。多摩総合医療センターへ来る人について、昔は徒歩であったが、京王バスが駅から直通で伸びた影響で人通りが激減した。また、大学のキャンパス内にコンビニやレストランができたり、出前サービスなどがあつたりと、商店に影響を及ぼすこともある。商店街の振興プランという視点もあるが、まちづくりの面における視点も重要と考えている。高齢化が進み、交通の便の問題があり、行けるところに行くという状態となっている。最初の段階で、現行プランの検証と評価を示していただきたい。

9. 今後の進め方について

- 廣瀬会長 今後の進め方について説明をお願いしたい。
- 事務局 事務局より資料5に基づき説明を行った。
- 廣瀬会長 次回以降の会議では、事前に資料を配付してもらえるのか。
- 事務局 できる限り事前に配付するつもりである。
- 丸山委員 商店街の専門的な内容はわからないが、前回のアンケート調査報告書を確認した。その中で、当事者の回答に「わからない」「無回答」が多い印象を受けた。このような結果が多い調査報告書ができてしまうと、当事者が何を考えているのか具体的にわかりにくいものになってしまうと感じた。市外の人というよりは、府中の中でも人が集まるところを目指したい。一概に同じ取組をするのではなく、それぞれの商店街、地域の実態に即した取組を実施できると良いのではないか。
- 宮沢委員 私自身が卸売センターで飲食店を営んでおり、事業協同組合の役員を担当している。日頃から市場をどのように盛り上げるのか検討している。盛り上げるためにはバスの問題も議論になっている。しかし、だれもどうしたらよいかわからなかったり、そんな動く体力がないなど、議論が進まないのが現実である。本日、この会議に出席して、ちゅうバスはそう簡単に動かせない背景や戦略がある、中心市街地と郊外で盛り上がり格差があるなど、そのような仕組みや実態を把握することができて有意義であった。それぞれの商店街が満足できるようなプランになるよう期待している。
- 事務局 アンケート調査の設問について、今回は「わからない」というのが多くならないように工夫している。また、交通の便により格差が生じてしまうということだったが、市内にハローサイクルというものがある。電動アシスト自転車で、安価かつかご付となっており、人の流れが変わったという話も聞いている。今後プランを策定する上で参考にしていきたい。
- 森田委員 駅前型と地元密着型の商店街では、タイプ別のすみ分けが必要であると

考えている。肝は生鮮三品である。大手資本の食品スーパーと敵対するのではなく、そういう大きな商業施設は集客のツールとみてうまく利用し、外に行かせないようにする策として戦略を描けば良いのではないか。このようなことを踏まえてアイデアを出していきたい。

筒井委員

新しく外から入ってくる元気な商店と、従来からある商店とで勢いにギャップがある。また、市の条例の中で、事業所も商店会に加入するように推奨されており、実際に医療関係の事業所も3分の1くらい商店会に加入している。あとは店舗を持たないが技術者、事業所も加入している状況もある。そのため、商店街のプランをどの範囲まで含めて良いのか。捉え方も変わってきていると考えている。

30～40年前は謝恩で顧客に相對していた。自治会は一緒にやろうという動きがあるので、一緒に盆踊りなどをしていた。ただ、タイプが違い過ぎてそのような取組はなくなってしまった。ところが今になってみると、謝恩などという商店街はない。商店街は緊急避難所となっていたり、地域の子供たちを守る場となっている。PTAも体裁に留意していたり、自治会の考え方が変わってきている。今は100歳を目指している高齢者が増えており、商店の人たちもいろいろな役を担わなければならなくなっている。一方、高齢者の居場所やコミュニケーションの問題もある。うまく絡めていくとまちづくりとして良いと思うが、今後、商店街の役割が変わってくる可能性があり、これはまちづくりの議論と考えている。買ってくれたらポイントを付与するとかではなく、地域の困りごとに対するボランティアなどを通じて自然に貯めたポイントを活用するような仕組みがあった時もあった。しかし、今は離れていることが現状となっている。商店街としての在り方全体を見直していく必要があるのではないか。

10. その他連絡事項

事務局

委員報酬の支払い、会議録の公開、委員名簿の公開、今後の会議の開催通知等、次回の会議日程について説明を行った。また、次回の会議日程を調整し、4月28日（水）18時からと決定した。

以上